

工業触媒研究会

1. 研究会の目的

エネルギー転換や環境保全の観点から、エネルギー、石油化学、環境関連産業を中心に、触媒の重要性がますます高くなっている。触媒学会ではこのような社会の要請に応えるべく、研究活動が活発に行われているが、触媒の実用に関わる諸問題（製造方法、使用方法、運転方法、充填方法、触媒劣化、劣化触媒の再生、使用済み触媒の処理方法など）について学会の研究活動として正面から取り上げられることは多くはなかった。

本研究会の目的は、これらの問題を解決するために既存の基礎研究会との連携を図り、学会と産業界との間のシーズとニーズの接点を増やすことにより、工業触媒技術の発展と触媒学会の発展に貢献することである。研究テーマとしては、工業触媒調製法、触媒劣化現象の解析法とその対策、触媒の使用方法、劣化および使用済み触媒の再生・処理方法、実用化された触媒プロセスの研究などを取り上げている。

2. 研究活動の概略、動向、展望

2.1 定例研究活動

当研究会は上記の目的を掲げて 2006 年度に設立され、実用触媒という接点で産官学のブリッジの役割を担うべく、現在下記の研修会、フォーラム（シンポジウム）の開催及び触媒討論会へのセッション参加を中心に活動している。更に化学工学会反応工学部会触媒反応工学分科会に協賛参加し、工業触媒技術の発展に寄与すべく議論に参加している。その他にも、工業触媒ニュース（ICN）の毎月 1 回の発行や、「工業触媒劣化／触媒調製事例集」の作成を継続的に行っている。

2.2 第 13 回工業触媒研究会研修会

コロナ禍の影響による 2020 年度からの延期を経て、以下の内容で 3 年ぶりに開催することができた。いこいの村浪江（福島県浪江町）において宿泊形式で実施し、見学会および特別講演を開催した。

日程	2023 年 6 月 23 日（金）－24 日（土）		
場所	いこいの村浪江（宿泊形式）		
見学会	福島水素エネルギー実証フィールド（FH2R） 浪江町内燃料電池移動販売車、みちの駅浪江グリーン水素燃料電池実証、 震災遺構請戸小学校		
特別講演	最近話題の工業触媒プロセス	（アイシーラボ）	室井 高城
参加者	18 名（一般：15 名，学生：3 名）		

2.3 第 132 回触媒討論会

北海道大学で開催された第 132 回触媒討論会において、工業触媒セッション（口頭：2023 年 9 月 15 日，ポスター：2023 年 9 月 13 日）を開催し、以下の依頼講演 5 件を含

む 8 件の口頭発表および 1 件のポスター発表が行われた。リサイクルや低環境負荷原料燃料製造に聴衆の関心は高く、セッションは非常に盛況であった。

依頼講演

- 1) ポリエステル系ポリエステル重合触媒の開発と工業化 (東洋紡) ○佐藤 万紀
- 2) プラスチックのケミカルリサイクルに向けた技術開発事例紹介 (弘前大) ○吉田 暁弘
- 3) “タイヤがタイヤに生まれ変わる未来”水平リサイクルで使用済タイヤからタイヤ素原料へ (ブリヂストン) ○北條 将広
- 4) 三菱ガス化学が取り組む環境循環型メタノール構想 Carbopath™ のご紹介 (三菱ガス化学) ○藤岡 慎也
- 5) 再エネを利用したグリーン水素サプライチェーンの構築 (ENEOS) ○松岡 孝司

2.4 第 17 回工業触媒研究会フォーラム

2024 年 1 月 30 日 (火) に東京工業大学蔵前会館ロイヤルブルーホールで開催し、下記の 4 名の講師による講演を実施した。フォーラムへの参加者は 68 名にのぼった。フォーラム後には懇親会を開催し、参加者および講師での懇親を深めた。

- 1) 始動する GX! やまなしから始まる水素エネルギー社会 (山梨県) 坂本 正樹
- 2) 欧米を中心とした合成燃料製造技術に関する動向調査 (JPEC) 稲村 和浩
- 3) SAF 分野における UOP グループの取り組みーATJ プロセス概要 (日揮ユニバーサル) 関根 剛
- 4) イリジウムおよびルテニウムの市場動向や今後の見通し (フルヤ金属) 桑原 秀樹

2.5 世話人会

以下の日程で計 3 回実施し、研究会運営や行事計画などについての議論を交わした。

第 1 回： 2023 年 6 月 24 日 (土) いこいの村浪江

第 2 回： 2023 年 9 月 15 日 (金) 北海道大学

第 3 回： 2024 年 1 月 30 日 (火) 東京工業大学

3. 世話人代表

二宮 航 (三菱ケミカル株式会社 MMA グローバルテクノロジー本部)

〒100-8251 東京都千代田区丸の内 1-1-1 パレスビル

E-mail: wataru.ninomiya.mc@mcgc.com